



温暖化を抑制する

道路の耐久性を向上する

道路景観と安全性の向上

遮熱性
舗装用塗料

高耐久・無溶剤タイプ

ATTSU-9® ROAD (U)

水性1液形タイプ

ATTSU-9® ROAD (W)

私たちは地球環境に配慮し、インフラの長寿命化の実現や社会課題を解決できる塗料で持続可能な社会づくりに貢献いたします。

PAINT.W NDER



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

本社/〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15 TEL. 03-3740-1547

https://nipponpaint-industrial.com/



「吉野さくら学園」見学会

女性ネットワークの会



吉野さくら学園の教室を見学する様子

日本建築士上学会女性ネットワークの会(熊野康子主査)は7月22日、開校したばかりの奈良県吉野町立小中一貫教育校「吉野さくら学園」(吉中久美校長)の見学会を行った。熊野主査から当日の模様をご寄稿いただいたのでその内容を紹介します。

見学会では、最初に吉野町教育委員会林勝則教育次長が学校の概要について説明されました。校舎には吉野町の特産である杉材や檜材が使われており、小学生1508人、中学生102人が現在学んでいるということでした。

地元木材を使用した校舎を建てた理由は「ふるさと教育」の一環で、吉野は木

材が生産されることなどという点を児童、生徒に覚えてほしいという目的がありました。

内装材には、ほぼ全面に木材が使われています。床や壁だけでなく、ドアや窓枠、手すり、ルーバー、外部のバルコニーなどもすべて木材が使用されています。

学校の案内表示も木材で作られており、取り外して配置が変更されるようにフロック形式となっていました。木のモチーフもすべて木材で作られていました。

小学校の床には、自然塗料(オスモ&エーデル、オスモカラーフロアークリアー)が使用されています。踏みごちがよいこともあり小学校校舎の中では裸足で過ごす児童も多いということでした。

小学校では机にも吉野檜が使用されていて、一人一台入学時に机セットを作り、机やいすの高さを変えながら中学卒業まで使用し、卒業時に長年使用した机の天板を各生徒が家に持ち帰るとのことでした。

入り口には、吉野町出身の画家が作成した貼り絵の作品が掲示されており、ライトアップできるものになっていて、吉野町の文化が取り込まれている校舎でした。

出席者からは、「間接照明なども効果的に配置しており、意匠的にも素晴らしい建物です。子どもの安全に配慮した床材を使用しており、女性目線から見ても子どもを通わせたいような学校であると思いました」という感想がありました。



成果を報告する草刈顧問

神戸中央マンション交流会とマンション適正管理サポートセンター マンション管理適正化セミナー

神戸中央マンション交流会とマンション適正管理サポートセンターの共同主催による「マンションセミナー」が8月6日午後1時30分から神戸市中央区このうべまちづくり会館会議室で開催された。

第一部は管理会社の力シフバラ・デイス開発営業部執行役員北和也部長が「会社概要と管理会社変更について」「第三者管理方式(管理者方式)

について」のテーマでプレゼンテーションを行った。

第二部は「プロポーザル+総合評価で不正と無駄を排除!」についてマンション適正管理サポートセンター(MTS)の草刈保廣顧問と小野利行会長が説明を行った。

MTSは「管理組合に寄り添った善意のサポート団体」を目指し、弁護士、マンション管理士、建築士、施工管理士、専門工事の経験者などのメンバーで検討を重ね、2019年8月に設立した。従来、大規模修繕工事の施工方法は、設計監理方式、責任施工方式があったが、MTSは第三の方式としてマンション改修工事に特化した「プロポーザル+総合評価落札方式」を提案し、昨年は国土交通省のマンション政策策を通じて要望書を出した。

昨年9月28日にマンション管理適正化法の法案が通り、4月1日から施行された。

草刈氏は最新の話題として「昨日(8月5日)国交省とリモートでキックオフを行い、マンション管理適正化のスタートを切った。プロポーザル+総合評価落札方式が法律の中に文書として記述され、またモデル事業として採択されて一区切りができた。いろいろな問題があったが、正統化に向けての関西初、全国初の事例

の事例
小野
ルナ
につい
から要
ついで
ること
て管理
ランス
ーなど
る。
大 次

工業用水性塗料ついに誕生! 水性

一液形ウレタン樹脂系エマルジョン上塗塗料

AQ ウレタン

塗色再現性の向上 高鮮映性 優れた乾燥性